

授業の計画	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
	第1回	講師紹介、講義の目的と15回の学習内容を説明し、標準化の意義、標準化の歴史について概観する。(4/6 水)	有	対面
	第2回	標準化の方法・対象・分類、JISの標準化について説明する。(4/8 金)	有	録画
	第3回	日本の標準化政策について国際環境の変化、国際標準化戦略目標、第三者認証、支援政策を解説する。グループ演習の課題説明とグループ分けを行う。(4/13 水)	有	対面
	第4回	規格が経済に与える影響について、規格の分類、経済効果、企業戦略について講義する(4/15 金)	有	録画
	第5回	規格の国際市場性について、WTO/TBT協定、ISO/IECの取り組み、ウイーン協定とドレスデン協定を中心に講義する。(4/20 水)	有	対面
	第6回	先端技術の関連した標準化の形態、標準化戦略の変遷、企業の戦略と戦術について講義する。例として、国際市場性、カード・光ディスク等の事例について講義する。(4/22 金)	有	録画
	第7回	ソフトウェア関連の標準化について、OMG、OASIS、Java Community Process、W3C等標準化団体について説明し標準化プロセスについて講義する。ソフトウェアにおける戦略例について、GUI、分散システムとWebサービス、スマートフォンについて講義し、市場戦略と組み合わせた標準化戦略についても理解を深める。(5/6 金)	有	録画
	第8回	標準化のトピックスとして、文字コード標準、ロボット技術のデファクト標準化を取り上げ解説する。(5/11 水)	有	対面
	第9回	特許権とライセンス問題、特許権と国際標準化、企業戦略について講義する。(5/13 金)	有	録画
	第10回	グループ演習発表(1) (回数は受講者の数に依存します) グループ演習の発表を行う。1チームQAを含めて45分程度とする。(5/18 水)	有	対面
	第11回	特許権の取得のプロセスについて講義する。(5/20 金)	有	録画
	第12回	グループ演習発表(2) :グループ演習の発表を行う。1チームQAを含めて45分程度とする。(5/25 水)	有	対面
	第13回	ソフトウェアの著作権、コンピュータプログラム・データベースの著作物性、デジタルコンテンツの著作権、動向等、著作権について講義する。(5/27 金)	有	対面
	第14回	グループ演習発表(3) :グループ演習の発表を行う。1チームQAを含めて45分程度とする。(6/1 水)	—	対面
	第15回	総括：本講義を通しての総括を行う。(6/3 金)	有	録画
試験	範囲は講義全体とする。試験の際は、参考資料の持ち込みは不可です。(6/8 水)	—	対面	
成績評価	グループ演習 20点、最終試験 42点、小テスト 38点として、評価する(合計100点満点)			
教科書・教材	LMSシステムで配布する。標準化教育プログラム「共通知識編」、「個別技術分野編-電気/電子分野」を活用している。			
参考図書	産業財産権標準テキスト 経済産業省 無償配布 国際競争とグローバル・スタンダード」経済産業省標準化経済性研究会編 国際標準化と事業戦略—日本型イノベーションとしての標準化ビジネスモデル 小川 紘一 ソフトウェアエンジニアリング講座 1 「ソフトウェア工学の基礎」 日経BP社			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	—		
	継続的学修と研究の能力	—		
	チーム活動	○	グループで調査を行い、発表作成できる	
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	—		
	ドキュメンテーション	—		
	革新的概念・発想	○	標準化や特許の実例から革新的概念・発想の実例	
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	○	標準化や特許の実例からニーズ・社会的・マーケット的視点	
	問題解決	—		
	リーダーシップ・マネジメント	—		
	ファシリテーション・調整	—		

専攻名	情報アーキテクチャ専攻	必修・選択	選択	単位	2	学期	1Q
科目群	エンタープライズ系科目群	科目名	情報アーキテクチャ特論 2			教員名	戸沢 義夫
		(英文表記)	Business Analysis				

概要	<p>ビジネスアナリシスを理解する。ビジネス・アナリストとしての基本スキルを身に付ける。ビジネスアナリシスは、International Institute of Business Analysis により「ビジネスアナリシスは専門職であり、企業のチェンジに関わる。ニーズをはっきりさせ、ステークホルダに価値をもたらすソリューションを推奨する。」と定義されている。ビジネスアナリシスでのタスクは 8 つの知識エリアに整理され、知識体系としてまとめられている、それは A Guide to the Business Analysis Body of Knowledge (BABOK® Guide)として出版されている。</p>						
目的・狙い	<p>International Institute of Business Analysis (IIBA®)から出されている、ビジネス・アナリストにとっての世界標準として認識されている「A Guide to the Business Analysis Body of Knowledge (BABOK® Guide)」を学び、そのタスクを実施できるように、必要な知識とスキルを身に付ける。</p> <p>修得できる知識単位:</p> <p>(A3) K-06-15-02: サービスの設計・移行 (レベル 4) サービスの計画、サービスの設計・開発</p> <p>(A3) K-05-14-03: プロジェクトステークホルダマネジメント (レベル 3) ステークホルダの特定、ステークホルダの管理</p> <p>(A3) K-07-17-01: 情報システム戦略 (レベル 4) 情報システム戦略の意義と目的、ビジネスモデル、業務モデル、情報システムモデル、エンタープライズアーキテクチャ (EA)</p> <p>(A3) K-07-17-02: 業務プロセス (レベル 4) 業務分析、業務改善、業務設計</p> <p>(A3) K-08-19-03: ビジネス戦略と目標・評価 (レベル 4) ビジネス環境分析、ニーズ・ウォンツ分析、競合分析</p> <p>(A3) K-07-18-02: 要件定義 (レベル 4) 要求分析、ユーザーニーズ調査、現状分析、課題定義、要件定義手法、業務要件定義、機能要件定義、非機能要件定義、利害関係者要件の確認</p> <p>(A4) K-04-12-01: システム要件定義 (レベル 3) システム要件定義 (機能、能力、業務・組織及び利用者の要件、設計制約条件、適格性確認要件ほか)、システム要件の評価</p>						
前提知識 (履修条件)	<p>企業で仕事をしたり、ビジネス経験のあるのが望ましい。情報システム特論 1、情報システム特論 2、情報ビジネス特別講義 3、情報ビジネス特別講義 4 と合わせて履修するとより効果がある。</p>						
到達目標	上位到達目標						
	<p>CIO として役割・責任を果たすことができる。</p> <p>International Institute of Business Analysis (IIBA®)が定めている Certified Business Analysis Professional (CBAP®)や Certification of Competency in Business Analysis (CCBA®) の世界標準資格が得られる。</p>						
	最低到達目標						
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点			
	録画・対面混合授業		○	対面講義には、事前にレポート課題が出される レポート内容を教材として使用する			
	対面授業	講義 (双方向)	—				
		実習・演習 (個人)	—				
		実習・演習 (グループ)	—				
サテライト開講授業		—					
その他		—					
授業外の学習	<p>1000 字程度のレポートを何回か出す。レポートのための調査・執筆に時間をかけること。期日までに必ず提出すること。提出されたレポートはこの講義の履修者に公開する。</p>						
授業の内容	<p>教科書『ビジネスアナリシス知識体系ガイド(BABOKR ガイド)』に沿って講義を実施する。原則として、講義録画の回と対面授業の回をセットにして講義を進める。</p>						

授業の計画	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
	第1回	ビジネスアナリシス、ビジネス・アナリスト、CIOの役割・責任。 初回受講の前に事前レポートを課す。	—	対面
	第2回	ビジネスアナリシスの基本概念	—	録画 (対面なし)
	第3回	知識エリア (Elicitation and Collaboration) 事前レポートを課す。	—	対面
	第4回	知識エリア (Elicitation and Collaboration)	—	録画 (対面なし)
	第5回	知識エリア (Elicitation and Collaboration) 事前レポートを課す。	—	対面
	第6回	知識エリア (Requirements Analysis and Design Definition)	—	録画 (対面なし)
	第7回	知識エリア (Requirements Analysis and Design Definition) 事前レポートを課す。	—	対面
	第8回	知識エリア (Solution Evaluation)	—	録画 (対面なし)
	第9回	知識エリア (Strategy Analysis) 事前レポートを課す。	—	対面
	第10回	Underlying Competencies	—	録画 (対面なし)
	第11回	Underlying Competencies 事前レポートを課す。	—	対面
	第12回	知識エリア (Requirements Life Cycle Management)	—	録画 (対面なし)
	第13回	知識エリア (Business Analysis Planning and Monitoring) 事前レポートを課す。	—	対面
	第14回	Perspectives	—	録画 (対面なし)
	第15回	プレゼンテーション試験 1回目 (1回目か2回目のどちらかでプレゼンテーションを行うこと)	—	対面
試験	ペーパー試験は行わない プレゼンテーション試験 2回目 (1回目か2回目のどちらかでプレゼンテーションを行うこと)	—	対面	
成績評価	次の2つのポイントで評価する(合計100点満点) レポート課題 50点 1000字程度の小論文(レポート課題)を数回提出する。 プレゼンテーション 50点。論理展開が適切かどうか、チャートが分かりやすいかどうか、説得力があるかどうか がプレゼンテーションの評価ポイントになる。			
教科書・教材	ビジネスアナリシス知識体系ガイド(BABOK®ガイド) Version 3.0 IIBA® 日本支部、9,000円			
参考図書	必要に応じて、講義中で指示する。			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	○	プレゼンテーション試験で合格できるレベル	
	継続的学修と研究の能力	—		
	チーム活動	—		
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	—		
	ドキュメンテーション	—		
	革新的概念・発想	—		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	—		
	問題解決	—		
	リーダーシップ・マネジメント	—		
	ファシリテーション・調整	—		

専攻名	情報アーキテクチャ専攻	必修・選択	選択	単位	2	学期	4Q
科目群	エンタープライズ系科目群	科目名	情報システム特論 2			教員名	戸沢 義夫
		(英文表記)	Information Systems and Business Process				

概要	ITは仕事のしかたを変える力を持っている。BPR（Business Process Reengineering）は経営に大きなインパクトをもたらす。仕事のしかたを変えるために、どこに目をつければ良いか、どのようにアプローチすれば良いか、どのような論理で相手を説得すればよいかを実践できるようにする。ITは縦割りになりがちな組織の中で、組織横断的に横串を刺す Capability を持っている。情報の統合化と組織（企業）をまたがる業務プロセスが BPR にとって極めて重要であることを指摘する。情報の統合化の例として部品表を取り上げ、代表的な業務プロセスとして SCM（Supply Chain Management）と CRM（Customer Relationship Management）を取り上げる。ITによるビジネスプロセス・マネジメントで何が可能かを知り、情報戦略コンサルタントとして必要な視点やスキルを身に付ける。							
目的・狙い	<p>将来、CIOとして自社の仕事のしかたを変えていこうとする人、情報戦略コンサルタントとしてお客様（企業）に BPR（Business Process Reengineering）を提案しようとする人が必要とする思考方法、発想方法、考え方、スキルを学ぶことを目的としている。</p> <p>修得できる知識単位:</p> <p>(A4) K-07-17-01: 情報システム戦略（レベル 4）情報システム戦略の意義と目的、全体最適化方針、全体最適化計画、情報化投資計画、ビジネスモデル、業務モデル</p> <p>(A4) K-07-17-02: 業務プロセス（レベル 4）BPR、業務分析、業務改善、ビジネスプロセスマネジメント（BPM）</p> <p>(A4) K-07-17-03: ソリューションビジネス（レベル 4）ソリューションビジネスの種類とサービス形態、業務パッケージ、問題解決支援</p> <p>(A4) K-07-17-04: システム活用促進・評価（レベル 4）情報リテラシ、データ活用、システム利用実態の評価・検証、システム廃棄</p> <p>(A4) K-07-18-01: システム化計画（レベル 4）システム化構想、システム化基本方針、全体開発スケジュール、プロジェクト推進体制</p> <p>(A2) K-08-19-04: 経営管理システム（レベル 4）CRM、SCM、ERP</p> <p>(A2) K-08-21-01: ビジネスシステム（レベル 4）物流情報システム、公共情報システム、電子政府、POS システム</p> <p>(A3) K-08-21-05: 産業機器（レベル 4）</p> <p>(A2) K-09-22-02: OR・IE（レベル 4）</p>							
前提知識 (履修条件)	プレゼンテーションにより相手を説得することができる人、または、相手を説得できるようなプレゼンテーションをしたいという意欲のある人。説得時に必要になる論理的考え方、必要な知識を身に付けている人。							
到達目標	上位到達目標							
	情報戦略コンサルタントとして活躍できる CIOとして活躍できる							
到達目標	最低到達目標							
	BPR、SCM、CRM、部品表、ビジネスプロセス・マネジメントとは何かを説明できる							
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点				
	録画・対面混合授業		○					
	対面授業	講義（双方向）		○				
		実習・演習（個人）		—				
		実習・演習（グループ）		—				
	サテライト開講授業		—					
その他		—						
授業外の学習	知識を学ぶよりは考え方を学ぶことが重点になるので、何か教えてもらうという受け身の立場で受講しないこと 日頃から世の中で起こっているトピックに注目しておくこと レポートのための調査、執筆時間を確保すること レポート・課題は必ず期日までに提出すること 提出されたレポートは受講者全員への公開を原則とする							
授業の内容	講義は毎回配布する資料を使用して行う。 最新トピックを題材にした学生間の議論が多く含まれるように講義内容を調整する。 実際に行う講義の順序・内容は変わる可能性がある。 製造業の事例が多くなるが、考え方はいろいろな業種に役立つ。 戦略については、事例を基に議論を行う。							